

新庁舎・(仮称) 新福祉社会館建設 基本設計市民説明会(2回目)	日時	令和2年2月14日(金) 19:00~20:20	場所	公民館貫井北分館 学習室A B
説明者	西岡市長、高橋庁舎建設等担当部長、中谷福祉保健部長、今井公共施設マネジメント推進担当課長、前島福祉社会館等担当課長			
事務局	企画政策課 渡辺主査、小林主任、萩野主任 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	14人(うち市議会議員4人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 基本設計の経過報告について 4 基本設計(案)の説明について 5 質疑応答 6 閉会			
(進行: 渡辺主査)				
<p>1 開会 2 市長挨拶 3 基本設計の経過報告について 4 基本設計(案)の説明について 高橋庁舎建設等担当部長が3について説明を行った後、株式会社佐藤総合計画が4について説明を行った。</p> <p>5 質疑応答</p> <p>【市民A】 旧福祉社会館には、公民館本館があったが、(仮称)新福祉社会館ではどうなっているか。 【福祉社会館等担当課長】 旧福祉社会館には公民館に加え集会室があった。(仮称)新福祉社会館では、これらを分けせず、多目的室として、多くの市民の方が使えるスペースとして整備している。具体的には、1階に大きな多目的室、2階に複数の多目的室を計画している。その他、印刷作業室や調理実習室を計画しており、公民館本館で行っていた活動もできるような設えと考えている。</p> <p>【市民B】 (仮称)新福祉社会館竣工時と庁舎竣工時における駐車場の確保策はどのように考えているか。高架下の利用を考えているのか。 【公共施設マネジメント推進担当課長】 工事期間中の臨時駐車場の確保について、JR東日本八王子支社に申し入れをしている。具体の台数が明確になり次第、詳細な協議を行う予定である。高架下については、JRの所有地となっており、商業展開や事業展開を考えていると伺っているので、高架下に確保できるとは限らない。</p> <p>【市民C】 太陽光発電はどのような機能を想定しているのか。また、非常時の電源確保に絞ったものなのか。 【株式会社佐藤総合計画】 建物の屋上部分にソーラーパネルの設置を想定している。今後の検討の中で増減することがあるが、現在、発電設備は80kWを想定している。平常時は、日常的に電気室に電気を供給し、災害時においても電気を使用できるよう計画している。</p> <p>【市民A】 庁舎と(仮称)新福祉社会館の構造は異なっているが、庁舎と(仮称)新福祉社会館の重なる部分はどうなるとなるのか。 【株式会社佐藤総合計画】 (仮称)新福祉社会館は耐震構造としており、柱と壁の耐力で地震に耐える構造としている。耐震構造は地面と接しているため、強度はあるが、地面と同じように揺れる構造である。庁舎は免震構造としており、ゴムの上に載っている構造のため、大地震の際に揺れが緩やかになる構造である。庁舎は、災害時においても機能維持が求められるので免震構造としている。庁舎と(仮称)新福祉社会館の間は地震時の揺れ方が異なるため、構造上、隙間を設けているが、動く蓋をつけることで日常的には問題なく使用できる計画としている。</p> <p>【市民A】</p>				

平面計画の白い部分はなにか。

【株式会社佐藤総合計画】

吹き抜けを計画している。1階から3階までを吹き抜け構造としており、吹き抜け空間を通して、庁舎と（仮称）新福祉会館の活動内容が見えるような設えとしている。

【市民D】

職員や市民の食堂を設えれば、災害時の市民やボランティアの方々用の炊き出しの拠点として使えるのではないかと。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

食堂は計画していない。炊き出しについては、外構部分でかまどベンチを設けたいと防災部門からは要望として挙がっている。今後、どこにどう設えるかは費用対効果を見ながら検討していきたい。

【福祉会館等担当課長】

災害時の炊き出しのような大量な調理には向いていないと考えているが、障がいのある方の働くスペースとして、カフェの設置を計画している。

【市民D】

外構部分について、みどりのイメージが少なく感じる。みどりを増やすため、地上駐車場の中に植栽を置くなど、工夫はできないか。また、透水性のある舗装で車両の荷重に耐えられるのか。非常時に来るとであろう大きな車両の荷重に耐えられるのか。

【株式会社佐藤総合計画】

みどりについて、庁舎建設面の植栽は伐採するか移植する計画としている。大きな樹木は東側と南側に集中しているため、既存樹木は可能な限り残す計画としている。北側については今ある桜等の樹木を移植する計画としている。駐車場部分は災害時に大きな車両やテントを張るスペースとして使えるようなオープンスペースとして考えている。駐車場以外の部分については、透水性の舗装を想定しており、車両が入る部分は荷重に耐えることのできる計画としている。みどりについては、地上面以外についても（仮称）新福祉会館屋上に植栽を計画しており、みどりを感じられるイメージとしている。

【市民B】

6階の議場はどのような設えを想定しているのか。

【株式会社佐藤総合計画】

議会フロアは北側をガラス張りとして外がよく見え、明るいろビーとしている。北側は直射日光が入らないので、ブラインド等は閉めず開放的にするイメージとしている。議場について、市民は主に傍聴席を利用することとなるが、エレベーターを出て傍聴ロビーから入り外の景色も見ながら利用ができるように想定している。議会フロアについては、行き止まり廊下を作らず、回遊できるように計画している。委員会室なども一部ガラス張りにするなどして市民の方が活動が見えるような設えを想定している。議会フロアも、市民が入りやすいような設えを考えている。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

6階の議会フロアについては、新庁舎建設における議会施設の在り方検討会において、議場の在り方、使い方等を市議会議員の目線から要望を伺っており、それらを設計者と共有し、整理していくことを考えている。

【市民B】

災害時の炊き出し用として調理実習室を想定している事例もあるが、そのような想定はしていないか。また、調理実習室内に災害時にだけ使用できる設備があってもよいのではないかと。

【福祉会館等担当課長】

事例については確認しているが、現状のスペースでは難しいと考えている。調理実習室は、基本的に調理を通して交流していただく場であると考えている。

【市民B】

調理実習室を炊き出しに利用できない理由はなにか？調理実習室を転用できたらよいと思う。

【福祉会館等担当課長】

調理実習室は、大量調理の使用に適しておらず、災害時の炊き出しには向いていないと考えている。また、本施設は避難所として計画していないので、炊き出しについては想定していない。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

災害時炊き出しについて、他市の公共施設では、給食センターに調理ロボットを置き、活用している事例がある。新庁舎・（仮称）新福祉会館建設は、地域防災計画の避難所ではないことから、災害時の炊き出し機能は、想定していない。

【市民E】

他事例では、調理実習室の横に保育室を設え、窓を通して子どもたちの様子を確認できるよう設えて

いるケースがある。調理実習室と多目的室の間に窓を付ける計画はないか。

【福祉会館等担当課長】

調理実習室と多目的室の間の壁は構造上厚い壁となっている。隣の多目的室は防音の部屋として考えている。

【市民F】

パッシブ手法や太陽光発電といった環境配慮について、従来の施設に比べてアピールとなるものについて説明いただきたい。

【株式会社佐藤総合計画】

この敷地は、環境配慮としては恵まれた敷地である。一番エネルギーを使うのは、空調であるが、一番影響を及ぼすのは西、次が東となる。東西に長い敷地形状から東西に長い建物形状となり、東西からの熱の影響は少なくなる。また、近隣建物のプライバシーの観点から、東西南面は、壁を主体としたデザインとすることで、断熱効率がよく、熱が建物に入りにくい計画としている。さらに、パッシブ手法等の導入を考えている。一般的な庁舎に比べ、40%程度はエネルギーが削減できると考えており、運用面の検討も踏まえ、将来的には50%のエネルギー削減を目指したいと考えている。

【市民F】

耐用年数、維持管理について説明いただきたい。

【株式会社佐藤総合計画】

設備の定期的な更新をする等適切に維持管理を行うことで耐用年数は100年を想定している。北面の段上形状部分については、メンテナンスがしやすいような装置を設置して、維持費が下がるような方策も考えている。

【市民F】

浸透枡が小金井市の特色であると思うが、敷地全体での雨水はどのように考えているか。

【株式会社佐藤総合計画】

庁舎部分の雨は地下に貯めて、トイレの洗浄水や植栽へ散水する計画としている。敷地内の雨水は浸透枡により浸透するように考えている。オーバーフロー分については、敷地外の下水道本管にゆっくりと水が出るように計画している。

6 閉会

— 以上で、閉会 —